

～ 外国人住民と共に暮らす ～

豊岡市には、外国籍の人、日本国籍であっても両親のどちらかが外国籍の人など、外国にルーツを持つ人たちが大勢住んでいます。

今回は、そういった人たちのことを知っていただくため、豊岡市をはじめ但馬で、日本語教室や生活支援に関する事業を行っている「にほんご豊岡あいうえお」さんから記事を寄せていただきました。

日本で暮らす外国にルーツを持つ人は年々増えています。地域がその人たちの力を必要とすることも多くなってきました。あいうえおは外国にルーツを持つ人々と地域住民が互いに言語や習慣の違いを理解し、助け合って暮らしていくことを願い、活動しています。

特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
理事長 植村 健二



子どもたちが書いた作文を紹介します。

みにくいアヒルの子を読んで

悲しそうな顔をしたアヒルのカバーを見てどんな物語か気になりました。「違う国に暮らすと苦労する」と私の母がいつも言っています。選んだ本にもどんな大変さがあるか知りたかったです。

ヒナの中に1羽だけ姿かたちの違うヒナがいました。他のアヒルが集まってきて「へえ、これがアヒルの子だって。俺たちの仲間だって。嫌だね、こんなのといっしょにされたら」と言いました。そして、羽をつつかれました。

私はフィリピンから来ました。私が一番苦労したのは言葉です。幼稚園の頃、「あ」という字が難しく、友だちに書いてもらいました。小さい「っ」がつく言葉も難しかったです。遊ぶとき、仲間に入れなかったことがたくさんありました。どこへ行ってもわからなくて、日本語の会話ができないから無視されたことがあります。

みにくいアヒルのように悲しいことやつらいことがありましたが、がまんしました。私もこのアヒルのようにいろいろ勉強をしました。自分自身の力でがんばったから、日本の生活にもなれてきました。言葉も覚ええました。みんなと遊びたいときに遊べます。友だちもたくさんできました。

楽しい人生です。がんばればできます。ゆうきをふりしぼってやりたいことをやります。私はそう思います。



とち おかりん
栢尾花凜
(小学4年生)

日本に来て

私は中国から3年前に来ました。豊岡に来て、4日後には小学校に行きました。日本語はまったく話せなかったのでも、とても不安でした。先生が何を話しているのかわからないので学校の勉強はとても退屈でした。みんなが何で笑っているのかもわからなかったので悲しかったです。でも、中国出身のサポーター（通訳者）が授業の内容を丁寧に通訳してくれました。友だちとの会話のきっかけづくりをしてくれました。サポーターさんのおかげで元気ができました。

学校が終わったら、日本語を勉強するため、あいうえおに帰りました。最初はあいうえおにいる「アルル」という犬に会うのが目的でした。日本へ来て1ヶ月が経ち、少しだけ友だちと話すことができ、とても嬉しかったです。アルルに会うのも楽しみでしたが、日本語をもっと勉強しようと思いました。

あいうえおのお茶会に必ず参加しました。いろいろな国の人が参加しています。日本の文化について知ることもできます。私の国のことについても話すことができます。最初は恥ずかしかったのですが、だんだん楽しくなってきました。

日本語がわかるようになってくると、友だちが何を話しているのかわかるようになり、喧嘩をするようになりました。あいうえおに泣いて帰ったこともあります。話を聞いてくれるところがあって本当によかったです。

中学生になり、自分の将来について考えるようになりました。日本語の勉強だけではなく、他の教科も一生懸命勉強したいと思っています。



ちんすうい
陳思頤
(中学2年生)